

群馬県鉱工業指数 令和7年12月分

1. 公表内容

12月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、化学工業、電気機械工業などが上昇したことから、3か月ぶりのプラスとなった。

○概況

生産、出荷、在庫はすべて上昇で推移

◆12月の主な数値の動向（調査産業計）

（令和2年=100）

	季節調整済指数			原指数		
	総合指数	前月比(%)		総合指数	前年同月比(%)	
生産	113.1	25.4	3か月ぶり+	114.5	10.9	4か月ぶり+
出荷	93.7	6.1	2か月ぶり+	99.5	▲4.0	6か月連続-
在庫	224.9	14.3	2か月連続+	205.2	33.6	9か月連続+
在庫率	223.3	2.0		200.8	45.0	

○生産指数は、季節調整済指数で、3か月ぶりのプラス、原指数で、4か月ぶりのプラスとなった。

○出荷指数は、季節調整済指数で、2か月ぶりのプラス、原指数で、6か月連続のマイナスとなった。

○在庫指数は、季節調整済指数で、2か月連続のプラス、原指数で、9か月連続のプラスとなった。

○総合指数前月比の伸び率（上昇又は低下）に影響を与えた主な業種

（）内は前月比

<生産>上昇:化学工業 (195.7%)、電気機械工業 (40.0%)
<出荷>上昇:電気機械工業 (28.6%)、化学工業 (19.6%)
<在庫>上昇:化学工業 (18.6%)、プラスチック製品工業 (6.6%)

○前月比が最も大きかった業種

<生産>上昇:化学工業 (195.7%) / 低下:繊維工業 (▲19.7%)
<出荷>上昇:鉱業 (45.3%) / 低下:繊維工業 (▲20.6%)
<在庫>上昇:鉱業 (28.6%) / 低下:その他製品工業 (▲46.1%)

2. 事業の概要

【目的】

県内の鉱業、製造業等の事業所における生産量、出荷量、在庫量の動態を調査し、指数化することにより、県内の産業活動の状況を総合的に把握し、景気動向の分析等のための基礎資料とする。

【作成方法】

令和2年（2020年）を基準年として、その鉱工業製品の1か月当たりの平均生産量、出荷量、在庫量を算出し、各品目の基準時ウェイトで加重平均して指数化する。

【各指数の品目数】

- ・生産指数・・・171品目
- ・出荷指数・・・164品目
- ・在庫指数・・・91品目
- ・在庫率指数・・・84品目

《参考事項》

- ・季節調整済指数…1年を周期として季節が要因となり起こる変動(季節変動)を取り除いた指数をいう。
- ・原指数…季節調整をしていない指数をいう。

3. 次回公表予定

令和8年3月末（令和8年1月分）

令和7年12月分

○総合指数前月比の伸び率に影響を与えた主な業種・品目

		業 種	前月比 寄与度	前月比%	寄与した主な品目	
生産	上昇	化学工業	24.8	195.7	医薬品製剤	
		電気機械工業	4.8	40.0	半導体・IC測定器	
		輸送機械工業	1.8	8.8	普通乗用車	シート
		生産用機械工業	0.5	13.3	半導体製造装置用関連装置	金型
	低下	食料品工業	▲ 0.9	▲ 4.7	清涼飲料	アイスクリーム
		繊維工業	▲ 0.2	▲ 19.7	織物染色整理	
出荷	上昇	電気機械工業	2.4	28.6	半導体・IC測定器	
		化学工業	1.7	19.6	医薬品製剤	
		業務用機械工業	1.0	34.1	自動販売機	
		輸送機械工業	0.5	1.6	普通乗用車	ガソリンエンジン
	低下	食料品工業	▲ 0.6	▲ 3.7	清涼飲料	スープ
		繊維工業	▲ 0.2	▲ 20.6	織物染色整理	
在庫	上昇	化学工業	10.7	18.6	医薬品製剤	
		プラスチック製品工業	0.5	6.6	プラスチック製機械器具部品	プラスチック製日用品・雑貨
		汎用機械工業	0.4	4.3	吸収式冷凍機	ショーケース冷凍機別置形
	低下	電気機械工業	▲ 0.3	▲ 6.8	自然冷媒ヒートポンプ式給湯機	
		その他製品工業	▲ 0.2	▲ 46.1	マーキングペン	

(注) 寄与した主な業種・品目の掲載順序は、上昇、低下とも寄与の大きい順である。一部秘匿あり。

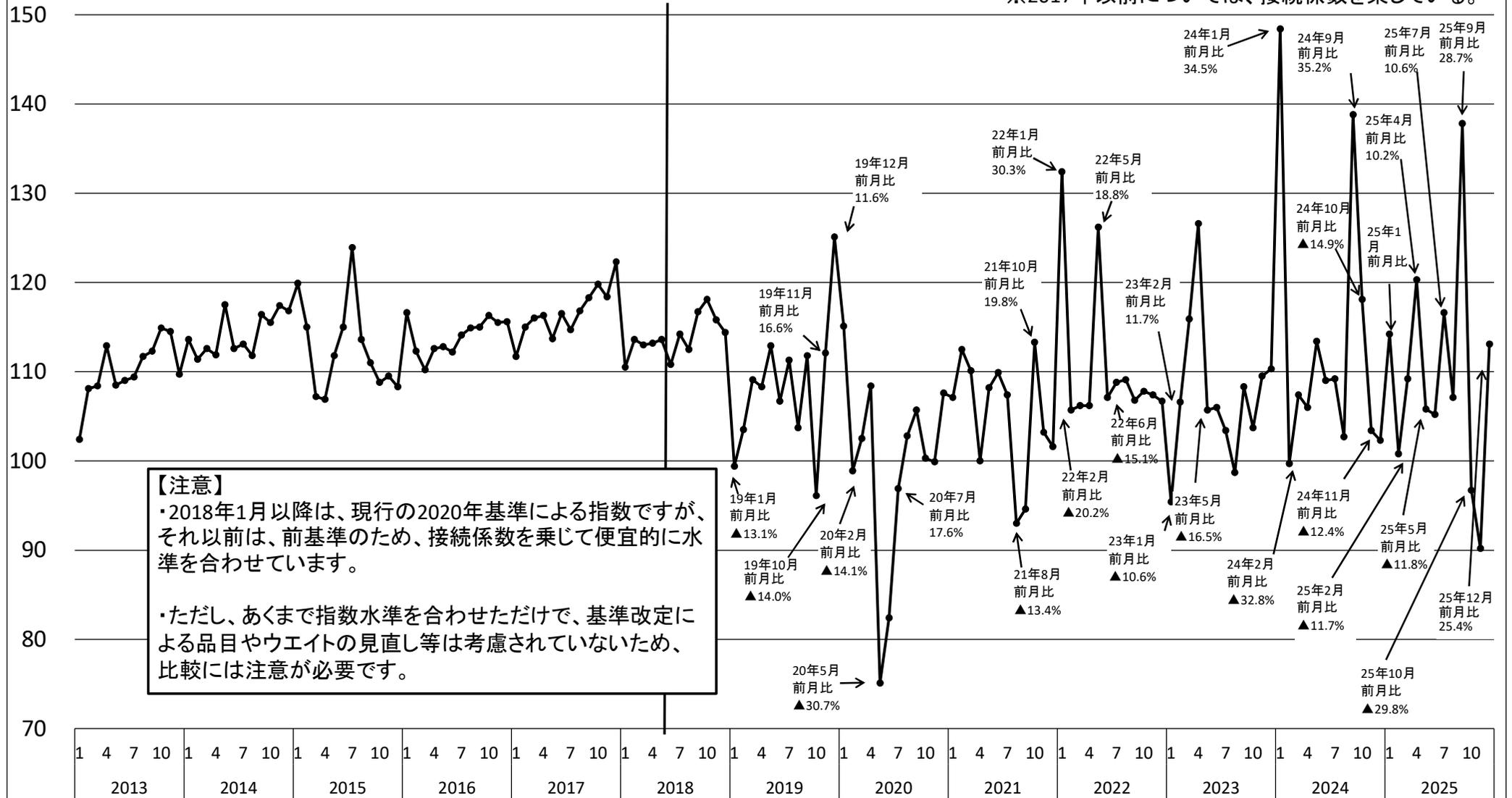
○前月比が最も大きかった業種

		業 種	前月比 寄与度	前月比%	寄与した主な品目
生産	上昇	化学工業	24.8	195.7	医薬品製剤
	低下	繊維工業	▲ 0.2	▲ 19.7	織物染色整理
出荷	上昇	鉱業	0.0	45.3	石灰石
	低下	繊維工業	▲ 0.2	▲ 20.6	織物染色整理
在庫	上昇	鉱業	0.0	28.6	石灰石
	低下	その他製品工業	▲ 0.2	▲ 46.1	マーキングペン

○群馬県鉱工業指数の動き

生産指数(季節調整済)

2020年=100
 ※2017年以前については、接続係数を乗じている。

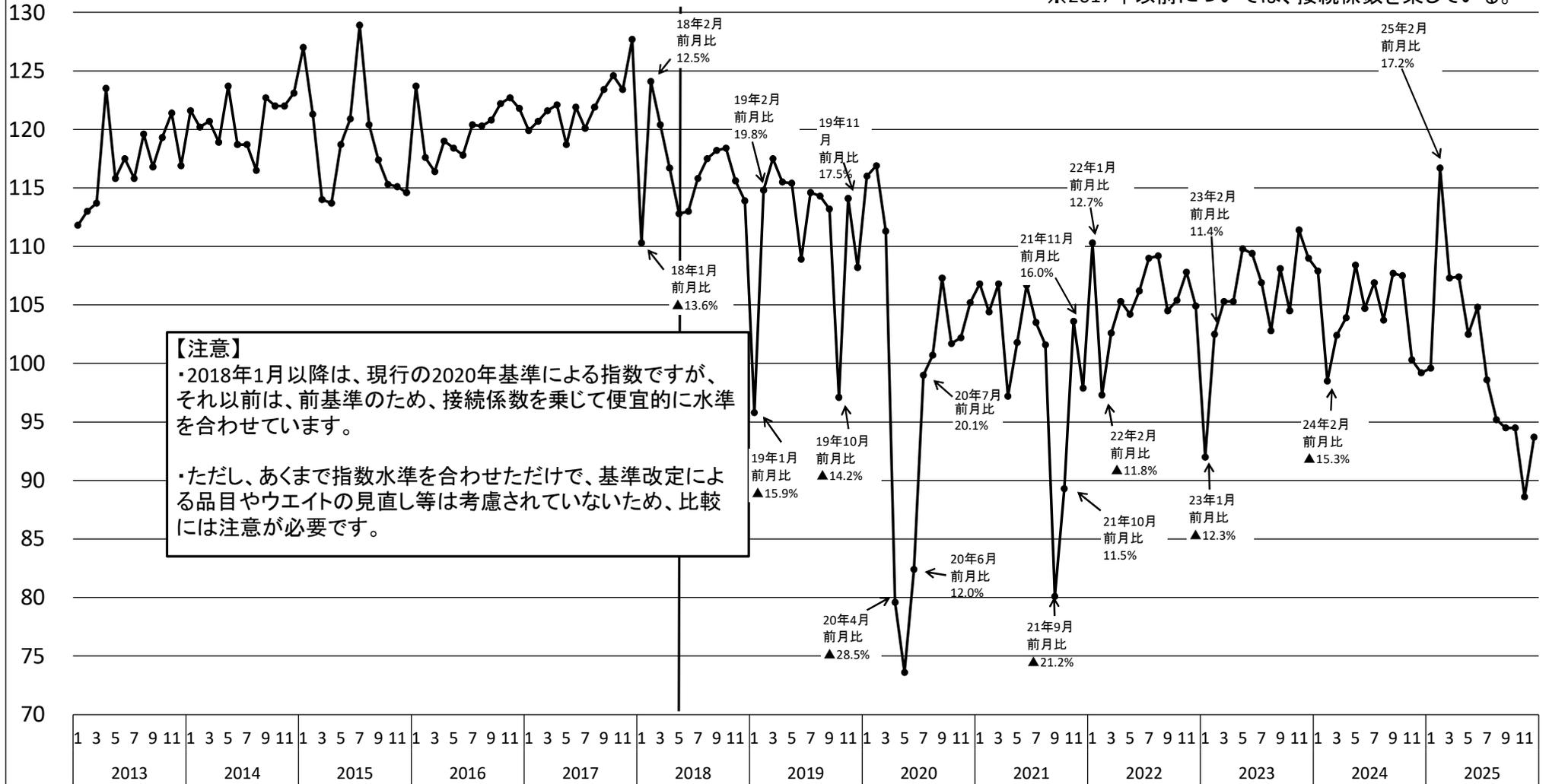


2015年基準: 2013年~2017年 2020年基準: 2018年~2022年 2025年基準: 2023年~2027年(予定)

※2023年以降の指数については、2025年基準改定(2028年度頃実施予定)の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

出荷指数(季節調整済)

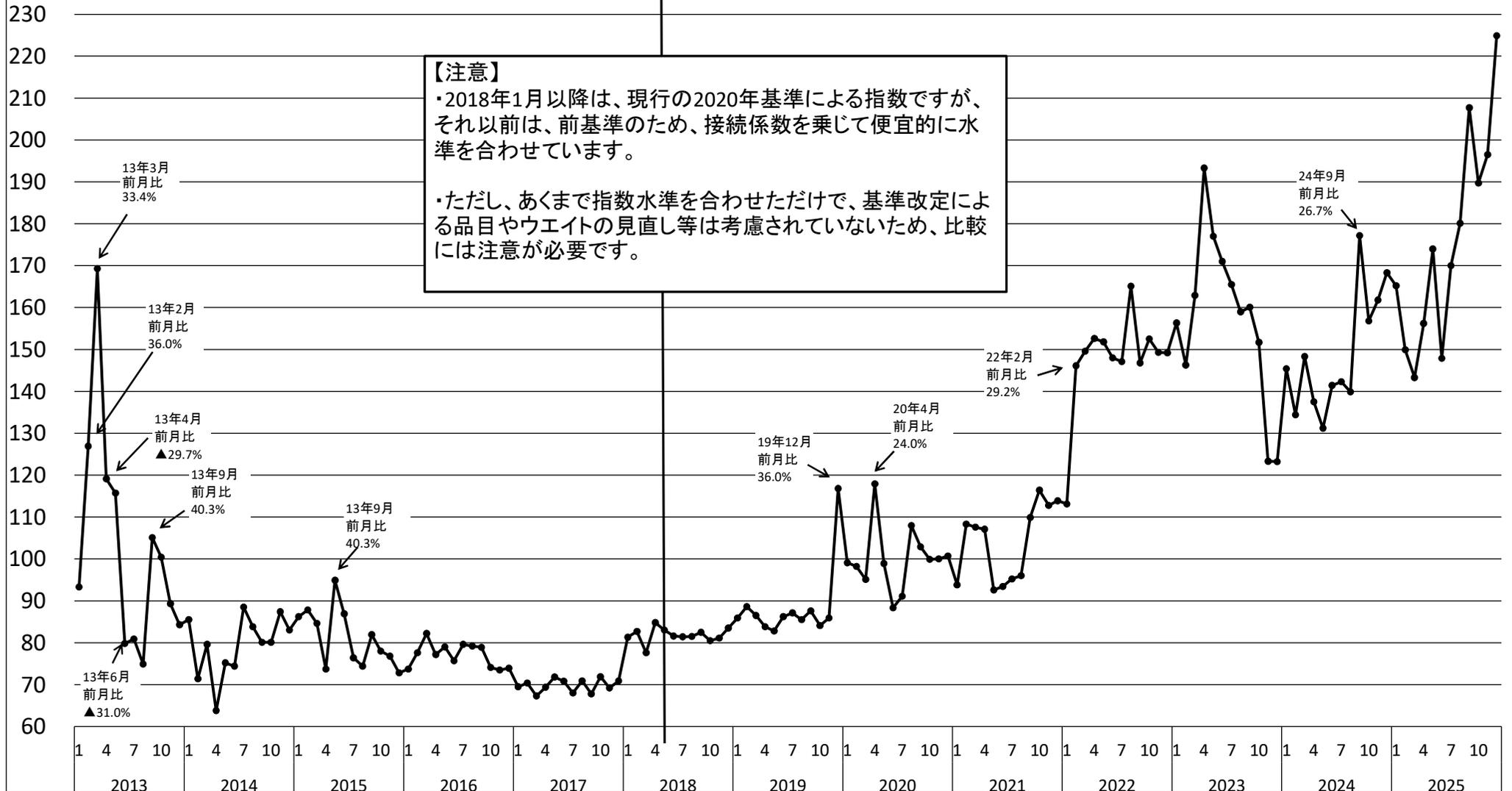
2020年=100
 ※2017年以前については、接続係数を乗じている。



2015年基準:2013年~2017年 2020年基準:2018年~2022年 2025年基準:2023年~2027年(予定)
 ※2023年以降の指数については、2025年基準改定(2028年度頃実施予定)の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

在庫指数(季節調整済)

2020年=100
 ※2017年以前については、接続係数を乗じている。

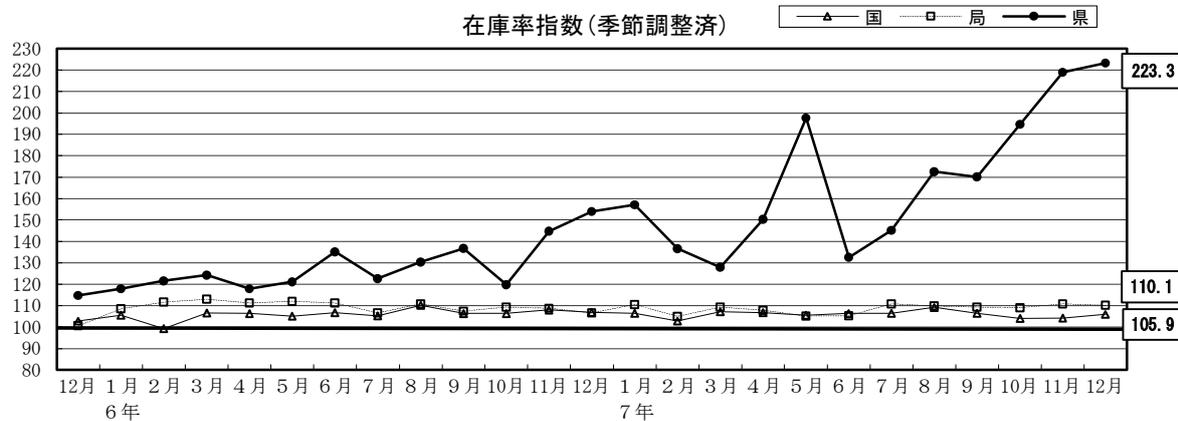
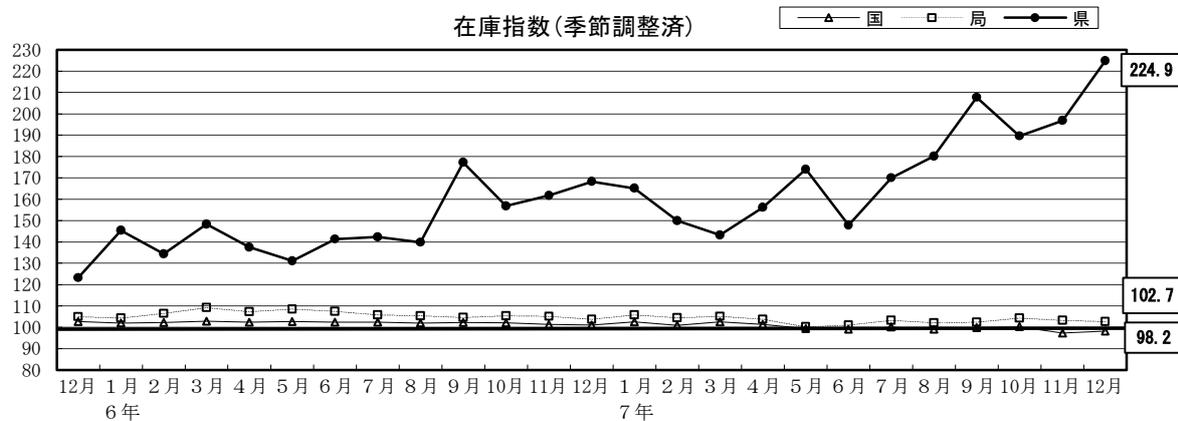
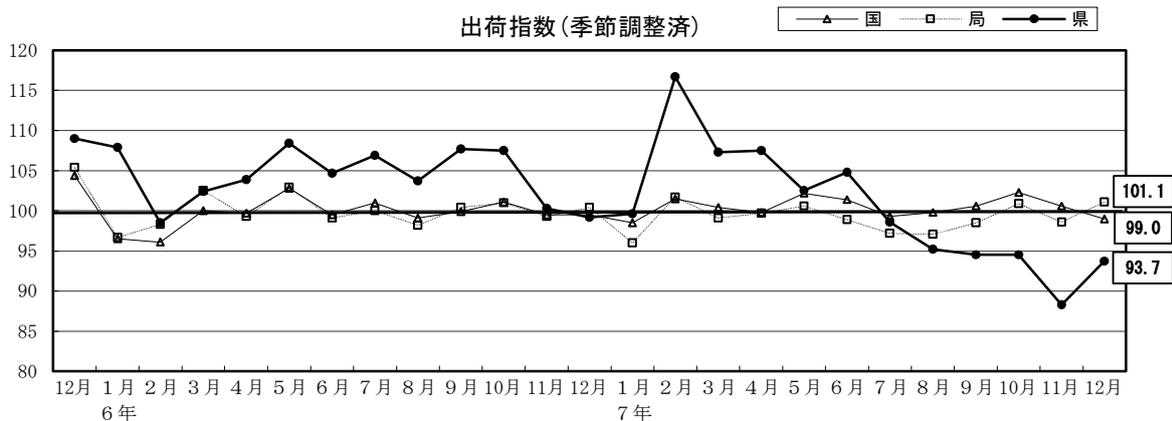
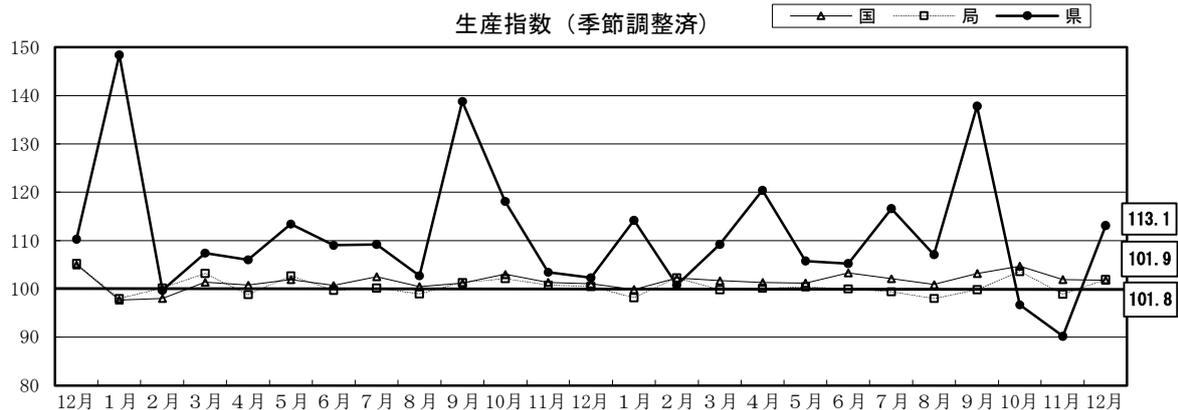


2015年基準: 2013年~2017年 2020年基準: 2018年~2022年 2025年基準: 2023年~2027年(予定)

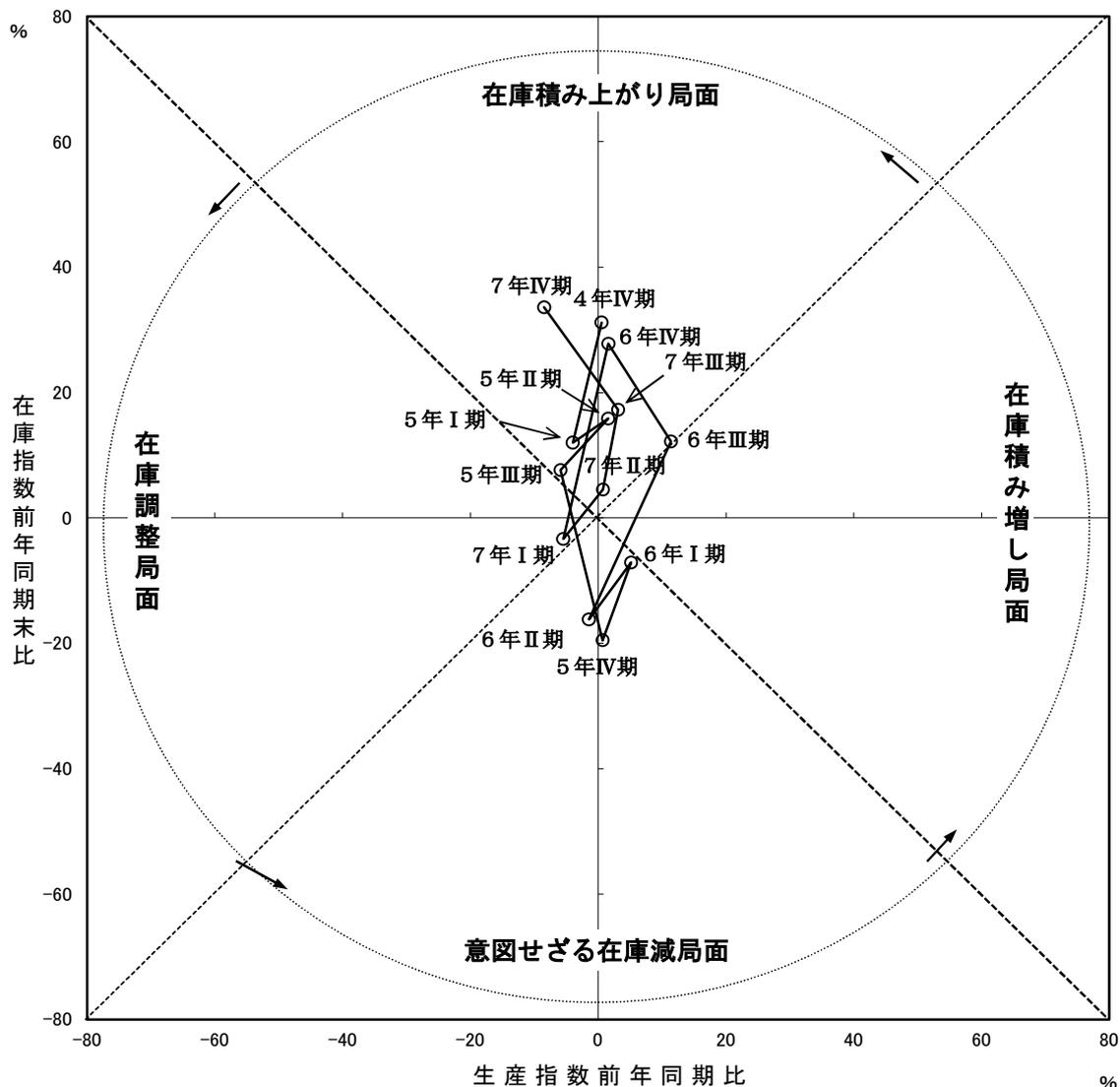
※2023年以降の指数については、2025年基準改定(2028年度頃実施予定)の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

○ 全国・関東経済産業局との比較

2020年=100



○ 在庫循環図



意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	需要が回復し、出荷が増加し始めるが、生産は停滞しており、在庫は減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大期)	生産、出荷ともに好調に推移し、減少していた在庫も積み増しされる。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	生産に比べ、出荷が減少し始め、在庫が積み上がる。
在庫調整局面 (景気後退期)	生産を調整することによって、在庫が減少する。